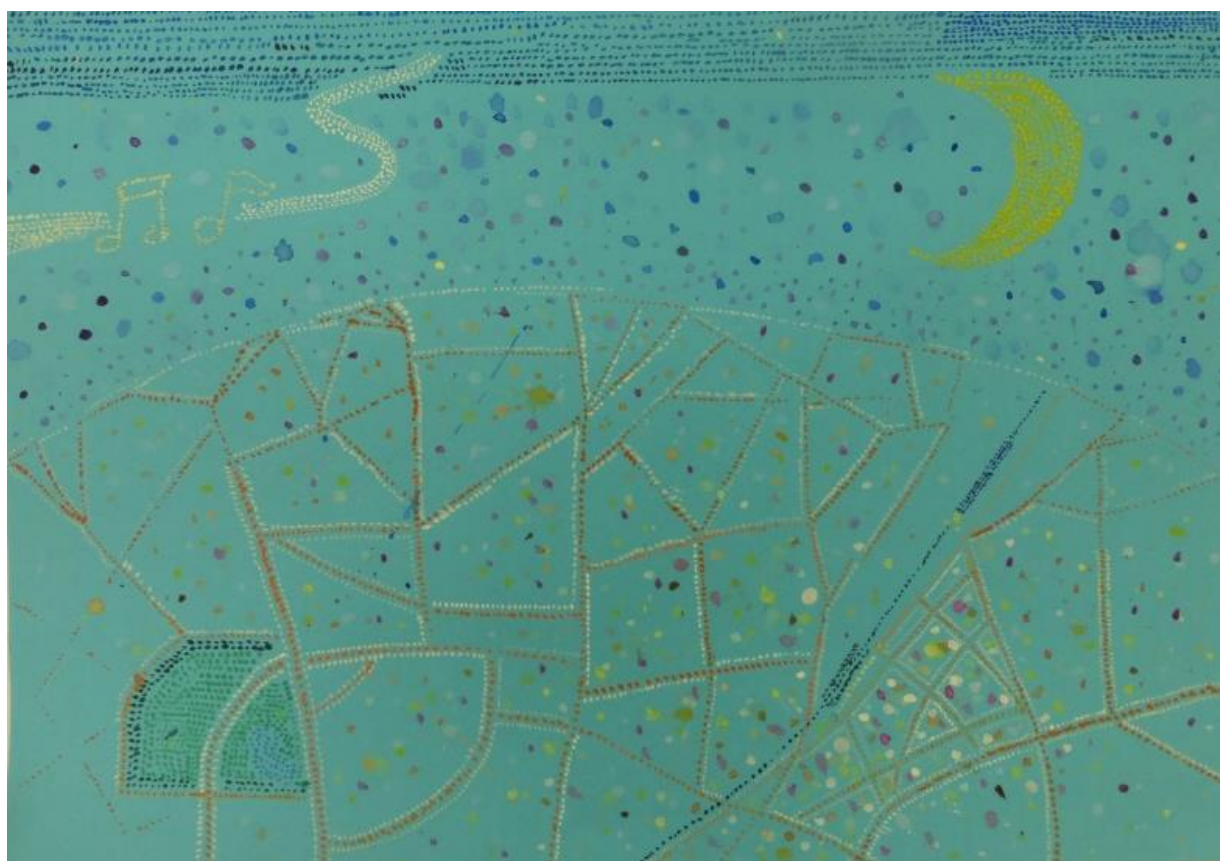


みちのく

少年編

—第40号—



平成30年度刊
仙台矯正管区

刊行のことば

本誌は、昭和五十五年の創刊号以来毎年刊行し、本号で四十号を数えております。

掲載の作品は、当管区管内少年院の在院者の応募作品の中から、各分野で御活躍の先生方が選定して下さったものを掲載しております。

なお、巻末には東北ブロック書画コンクールの入賞作品を掲載しておりますので、御覧ください。

平成三十一年二月

仙台矯正管区

目次

課題文『誓い』（3編）	2	歌壇	25
【選評】川田永子先生	8	【選評】伊藤久子先生	27
自由文（2編）	9	俳壇	28
【選評】川田永子先生	13	【選評】岩田 諒先生	30
読書感想文（3編）	14	柳壇	31
【選評】川田永子先生	20	【選評】佐藤岩男先生	33
詩苑	21	第四十四回東北ブロック書画コンクール	
【選評】原田勇男先生	24	入賞作品	37

《課題文》 課題『誓い』

誓い

盛岡少年院 O・S

自分は今、ある事件を起こして少年院にいます。今まで少年院で過ごした十か月間の中で、たくさんのことを考えました。被害者のこと、自分自身のこと、色々考えた中で、罪悪感とか、本当に申し訳ないという気持ちとか、後悔に似たような気持ち溢れてきました。もうそんな気持ちにならないためにも、被害者や周りの人たちのためにも、そして自分のためにも、誓ったことがいくつもあります。

一つ目は、もう二度と犯罪を犯さないということ。でもこれは人として当たり前のことだと思えます。一度も犯罪を犯すことなく生きていたとしても、誰からも褒められることはないはず。なぜなら、それが当たり前のことだからです。でもその当たり前が出来なくて自分は少年院に来ているので、改めて、二度と犯罪を犯さないと誓わなければならぬのかなと思います。

二つ目は、家族に対して恩返しをするということ。今回事件を起こしたこ

とで、たくさんの人へ迷惑、心配、負担をかけてしまいました。それにも関わらず、私の家族は見捨てることなくずっと応援してくれています。特に両親は、毎月二回面会に来てくれて、手紙も頻繁に出してくれて本当にありがたいし、感謝してもしきれません。出院して環境を整うまでの間は、どうしても親に頼らなければならぬ状況になると思います。でも環境が整って社会での生活も流れに乗ったら小さい所から少しずつ恩返しをしていきます。また、自分には妹と弟がいます。自分は一番上の兄ということになります。一番上の兄なんだからしっかりしていないと駄目なのに、今こうして少年院にいて、正直情けないです。妹と弟は、自分が少年院に入っているということとは知りません。ただ、どこか遠くにいるという認識だと思えます。誕生日には妹と弟から手紙が来て、「早く帰ってきてね」と書かれていました。それを見て一日でも早く帰ってやると誓ったのは言うまでもありません。

三つ目は、社会に貢献していくということ。被害者には、直接謝罪をすることも与えた苦しみを無かったことにすることも出来ません。その中で、何が償いになるのかを考えた結果、社会に貢献

していくということが一つのやり方としてあるのではないかなと思えました。被害者や、他にも迷惑をかけてしまったたくさんの人たちが住んでいる社会に貢献する、かなり遠回りではあると思うけど、そうすることがほんの少しでも被害者のためになるのかなと思っています。ただ、仕事をして税金を納めても社会に貢献していることになると思います。だから自分はそうではなく、目的意識をしっかりと持って、普通以上に社会に貢献できるようにしていきます。

最後は、自分と関わってくれる人を大事にするということです。家族はもちろん、これから新しい環境で知り合うであろう人も含めて全員です。自分は、今までの交友関係を断つので、ある意味交友関係はゼロからのスタートになります。だからより大事にしなければならぬと思います。また、自分は少年院にいたというだけで社会の人たちからすればあまり良いイメージを持たれないと思うし、そんな人とは関わりたくないという人がいてもおかしくはないと思います。もし相手が自分が少年院にいたことを知ったとして、それでも今ままで変わらさず仲良くしてくれる人、応援してくれる人は本当に大事にしなければならぬと思いま

す。

交友関係を断つと書いたけど、その中には断ちたくて断つ関係と相手から断たれてしまった関係があります。どうすれば相手から断たれなかったかを考えると答えは明白で、周りの人を大事にしていれば良かったと思います。相手が悩んだりしている時は近くで支えてあげる、いつでも近くで支えられるようにするためにはまず自分の生活を安定させる、自分を大事にする、自分を大事にしなければ周りの人を大事にすることはできない、自分を大事にできていなかったので、周りの人を大事にすることはできていませんでした。周りの人を大事にするために、自分自身を大事にしていきます。

こうしていたら、ああしていれば、という「たられば」は山ほどあるけれど、大事なものはその気持ちを繰り返し返さないように、そして少しでも幸せになれるように、これらの誓いを大事にしていきます。



約束、契約、誓約、契り、それらの言葉をよく耳にする。「神に誓って」と言いながらそれが嘘だったりもする。私は、今まで何度も誓いを立てては、破った。その度に信頼を失っていった。社会での生活は、交わした覚えが無いが、「法律を守り、秩序を守って生活します」という約束の下、生活している。

今なら「その約束を守っていればこんなことにならなかったのに」と思えるが、そう考えられるようになったのもつい最近だ。それまでは、後悔も反省も全くしていなかった。むしろ「次は何をやるのか」「どうやったらバレないか」と再犯のことしか考えていなかった。「あの時」と後悔しているが「もう二度とやらないか？」と聞かれても自信なんて無い。十中八九再犯かも分からない。本来なら「二度と再犯しないように反省したので大丈夫です」と言えれば良いのだが、今まで幾度となく繰り返し返して来たのに自信なんて持てるはずも無い。

「何故犯罪をするのか」と今まで何度も考えた。犯罪によって理由は違えど、求めているものは利得だった。金品だけ

では無く、気持ちや居場所や立場等だ。それらを求めて得る為に沢山のものを自分から手放していたが、その時は気付かなかった。それ程目先の利得が魅力的だったのか、それとも手放したものが小さくて気付かなかったのか、今となっては分からない。そもそも具現化しているわけでもないものを見たり、触れたりするのは不可能だ。

だけど実体の無いもの程、大切に掛け替えの無いものだったりもする。友情、信頼、自信、愛、約束。これらを「形にしろ」と言われてもできる筈が無い。態度や文字や言葉等で伝えることならできると。それでも時には空回りすることだって少なくない。いくら手に入れようとしてもこればかりは、簡単に手に入れられない。一番欲しいものは、犯罪では得られない。何を求めるのか、それは人それぞれだから分からないが、例えば何兆円ものお金を盗んでも、捕まってしまうれば何の意味も無い。上手い話には裏があるように、罪を犯してまで楽をしようとするれば後々、必ず何かしらの罰を受ける。そして、その罰はあまりにも重い。

「捕まったら自由が無くなる」という意味では無い。むしろそれはチャンスだ。少なくとも少年院や刑務所にいる間は、

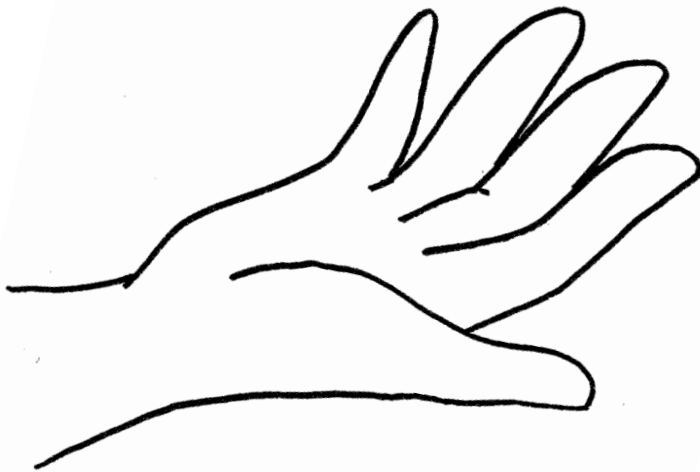
罪を犯さずに済むからだ。私の考える本当の罰とは「正常な思考を持てなくなる」「本当の意味で全てを失う」ということだと思っている。よく「繰り返ししていくうちに罪悪感が薄れていった」という言葉を耳にする。それがどういことか考えてみると「感情が麻痺している状態になっっている」と私は考えている。体が麻痺しているのに普通に動くはずがない。それは心も一緒だと思う。私の心も麻痺している心の一つだ。理屈では悪いと理解しているが、本当の意味では、理解できていない。それでも「もう止めたい」と思っている。しかし、「何を今更」という気持ちを抱いているのも確かだ。どうせなら「二度と罪を犯さない」と誓いたいが、根拠が無い。

私は、「神は乗り越えられない試練は与えない」という言葉を座右の銘としているが、時々疑ってしまう時もある。時に一人じゃ乗り越えられないような試練に出会うからだ。更生もその一つだと思う。沢山の人々に支えてもらってようやく挑戦することが出来る。支えてもらわなければ挑戦さえできない超難関の試練だ。今までの人生で築いたものを、否定しなければいけないのだから当然と言えば当然だ。だが不可能ではない。私の辞書に

「絶対不可能」という文字は無い。私は、「まだ成功へ途中なんだ」と思うようにしている。できることは証明できるが、できないことを証明することは難しいからだ。

可能性なんてただの数字でしかない。しかもそれは、今までの結果であって、これからやることの結果ではない。誰にでも、何事にも始めてはある。だからきつと誰もが更生できる。根拠なんか無いが、私はそう信じている。理由は簡単だ。信じたいから信じるだけだ。人を疑うより信じた方が気持ち良い。きつと多くの人がそう感じていると思う。もし「人なんて信じられない」と思ってしまう人は、一度鏡を見て欲しい。その人は一番身近にいるのに自分をあまり知らないこともある。だけどその人は誰よりも自分のことを考えてくれている。だからその人との約束を破ってはいけないし、嘘をついてはいけない。

そして、何か誓って欲しい。私は、鏡の中の人に「弱くても強かな大人になる」という目標達成を誓う。



誓い

青葉女子学園 パン工場のお姉さん

今までの私は周りから何回も怒られたり注意されても返事だけで、「何で怒られたのか」「何で注意されたのか」がよく分かりませんでした。怒られたとき私はいつも、「何でこんなことで怒られなければいけないの?」「周りに迷惑かけていないんだからほつといて。」と思っていました。

私はお父さんと2人で暮らしていました。お父さんは私の帰る時間が遅かったり連絡を無視したりすると、すごく怒ります。私は心配してくれるお父さんのことを「心配なんてしていませんよ?深夜徘徊して警察沙汰になるのが面倒くさいだけだろ。」とっていました。

ある日私は寝る前にお父さんに少し家から遠い所のお店の名前を言って、飲み物を買うに行くとうソをつき家を出しました。家を出られた私は友達と遊ぶ約束をしていたので、すごく嬉しかったです。お父さんは、すぐ寝るので私は朝方まで帰るつもりはなかったです。数分してから本当にお父さんが寝たか連絡をしましたが。返事が来なかったもので、寝たことが分かって安心しました。深夜2時頃に遊び終わって帰ろうとしたときに、パトカ

ーが来て補導されました。署に連れて行かれ2時間くらい話を聞かれました。朝方4時頃話も終わり帰れると思ったら、未成年者は保護者に引き渡さなければいけないと言われ、お父さんに電話されました。私はもう終わりだ、と思いました。まだ寝ている時間に何回も電話で起こされてカンカンに怒っていると思い、家に帰るのが怖くなりました。でも、お父さんにすぐ怒られることはなかったです。

「警察が居るから怒らないのかな?」と思いました。警察が帰ってからもたくさん怒られることはなく、「何していたの?何でウソついたの?」など聞かれました。最後は「もうこんな時間に起きないでね」と言われました。すごく怒られると思っていたけれど、そんなことはなく心配していたのかな、と思いました。お父さんが私にガミガミうるさく言ってくるのは「警察沙汰になるのが面倒くさくて」ではなく、本当に私の事が心配で怒ってくれていることが分かりました。何で私はお父さんの気持ちからなかったのかな、と少し残念な気持ちです。お父さんは怒るときはちゃんと怒り、私が友達とケンカしたときなど、バイトで嫌なことがあったときには話を聞いてくれたりして私を励ましてくれます。私は優しか

ったお父さんを何回も裏切ってしまった。私は今、お父さんと連絡が取れなくて寂しいです。これからも私と暮らしてほしいし、これから私の出来ていない所をしつかり怒って欲しいし、前みたいに楽しく生活したいです。お父さんにまた信用してもらえようと思ったらいいかを考えたいです。お父さん以外にも周りの人をもう傷つけないで、裏切ることにはもうしないようにします。

それと私は、捕まってからずっと思っている事があります。それは、会いたい人に会いたい時にすぐ会えないことです。私が悪い事をしなければ会いたい人にすぐ会えたいし、自分の事を良く分かってくれるのは少年院の先生より1番はやっぱり親だし、そんな何でも話せる親と話すのに先生を通したり、お金をかけてしか会うことができないのはすごく辛いです。捕まる前は、周りの大人は私の自由を奪って私をイラつかせて、面倒くさいことには触れないように、たくさん怒られているかと思っていたけれど、周りの人から離れて今の生活をしていると周りの人の優しさ、大切さが分かりました。私のことを怒らせる人はみんな私のことが嫌いで怒っているかと思っていたけれど、そう言う考え方はもうやめて周りからの支えを

大切にしていきたいです。周りに信用してもらえらるるように、これからしっかり「一人の社会人として当り前のことは何か。」を考えて学んでいきたいです。ダメな事は何か、何でダメなのか、怒られている意味もすっかり理解して今までと同じ考え方にならないで、周りの人をもう裏切らないで生活することを誓います。



【選評】 — 課題文 —

東北アララギ会「群山」編集委員

日本歌人クラブ会員

宮城県芸術協会会員

川田 永子

今回の課題「誓い」についての作品は、いずれも其の意味を噛み締めるように心境を語っており、心に響くものを覚ええました。

幾度か読み返して、甲乙付け難い作品中から、あれこれ勘案して結局、次ぎの様に紹介します。

— 盛岡 O・Sさん —

現在に至る迄の過程を丁寧に説明しつつ、深い自省の念を理解し易いように順序立てて語っています。特に、優しい両親や弟妹の為に、今後は真つ当な人生を歩んでいきたいと、「誓い」の心をしっかりと表現しています。

— 東北 K・Rさん —

自分の過去を正直に振り返り、人生の歩みの何たるかを分り易く

語っている内容です。

結末で、鏡に写る自分を見つめて「自分の事は自分で守る」と誓う心境に、独特な深い内省と思考が込められており、其の強い意志がよく伝わります。

— 青葉 パン工場のお姉さん —

優しいお父さんに感謝する気持ち、素直に溢れるように表現されている作品です。

そんなお父さんを裏切るような自分の行動を、深く反省している心情が順直に伝わってきます。更に、周囲の人をも裏切らない生活を誓うと語る、その顛末がよく理解出来る文章で、仄々とした明るさを覚ええました。

尚、紹介出来ず残念ですが、母の愛情深い手紙に涙が流れた心境を書いた作品や、過去の行動の良し悪しを考え、今後は真つ当な人生を歩む事を誓うと語った作品などもあつて、思わず祈りに似た感動を覚ええました。

《自由文》

蛇

東北少年院 I・K

蛇って気持ち悪い。そう思っている人が多くいる事は分かっています。その気持ちはおかしなものではなく、今現在の姿まで人間が進化する前に蛇は人間の天敵として恐れられたりしてきました。そうした所から、蛇に対して嫌悪感を抱いてしまうのも本能的な部分から来る物で無理ありません。今回私はその世界から、深く知る前にイメージなどで避けられてしまっている「蛇」についてお話していきます。

まず、私は蛇が好きです。理由は無駄のない体にすごい身体能力を持っていて個体によって全然違う柄や体色を持つなど私には蛇がものすごくカッコイイ存在に見えています。他にも魅力はありますが、きりがないので次に進んでいきます。蛇といえば思い浮かべるのは、アナコンダやニシキヘビなどといったとても大きな蛇をイメージする人が多いかもしれませんが、今回私が話すのは、人を丸飲み出来る程大きくはならない、ペットとして飼育しやすい蛇の話です。

近年爬虫類のペットの需要が増えてきています。ここでは名前だけの紹介になりますが、人気の爬虫類はフトアゴヒゲトカゲや、ヒョウモントカゲモドキなどが挙げられます。もちろん蛇の中にも人気者がいます。蛇は分類で大きく二つに分ける事が出来、一つ目はボア科、二つ目がナミヘビ科となります。

まずはボア科のボールパイソンです。この蛇は、体長は最大でも二メートル程で殆どの個体は成体でも一・五メートル程の大きさにしかなりません。ですがこの蛇は体が太くなり、成体は胴の部分が直径十センチ弱になるものもあります。大きな個体では強い存在感を放ちますが、この蛇は大人しく穏やかな性格の個体が多くハンドリングもしやすい蛇です。また、この蛇の特徴としてとぐろを巻くと名前についている様にボールのように丸くなります。

次はナミヘビ科のコーンスネークという蛇です。この蛇は体長がボールパイソンよりは長く大きな個体で二・五メートル程になる物もありますが、体はそこまで太くならず、成体の胴体部分でも直径三〜四センチ程の細長い蛇です。この蛇の特徴はなんととっても柄や体色のバリエーションの多さです。この点はボールパ

イソンも比較的柄などが多いほうですが、コーンスネークは毎年新たに品種が作られています。品種改良されたコーンスネークが出回りすぎて、元々のワイルドというノーマル個体の方が珍しいという状態になっています。

私が初めて購入した蛇が、このコーンスネークで、購入当時は三十センチ程の幼体でした。そこから大きく育てようと毎週二回エサとなるマウスを与えていました。自分なりに蛇が住みやすくなる環境を作り上げ、私は毎日のようにストレスを与えない程度にハンドリングをしては、人に慣れさせる努力をしました。この時私の事を認識していたかは分かりませんが、ハンドリングをしている際に、最初はずっと逃げようとしていたのが、私の肩の上に乗せると大人しくするようになりました。一年程そうした生活を続けていくと、体長は約七十センチ程にもなり、とても成長を感じる事が出来、私は蛇を育てる事から命の大切さなどを改めて知る事が出来ました。

蛇だけでなくどんな虫や動物にも一つの命があり、心があると自分は考えています。少しずつ自分に慣れてくれたこの蛇の本当の気持ちは分かりませんが、自分を敵ではないと理解し、更に信用を、し

てくれたのではないかと私は思っています。

今回私は二種類の蛇を例に挙げて話をしましたが、蛇の種類はたくさんあり、柄は果てしない程あります。現在になっても未だに生体が全然解明されていない蛇などもおり、興味のある方は是非一度爬虫類ショップなどへ行き、間近で見ても少くとも蛇の魅力に気付き、好きになつてくれれば嬉しいです。

ここからは私の知っているちよつとした蛇についてのお話を紹介します。

まずは蛇といえ、という呼掛けですぐに思い浮かんできそうなアミメニシキヘビの話で、この蛇は世界最大の蛇と言われている。その大きさは全長十メートルを越えるものも存在する様です。ちなみにグリーンアナコンダも世界最大の蛇として有名ですが、こちらは厳密に言うと世界最重量の蛇になります。このアミメニシキヘビはとても頭が良く、海外ではペットとして飼育させている個体で名前を呼べば近付いてくる事もあるようです。

今度は毒蛇と言え、キングコブラのお話です。この蛇は毒蛇の中で一番大きくなり、その体長は五メートルにもなり、有名な威嚇の姿勢を取ると頭の高さは一

五メートルにもなるそうです。こんなに大きくて毒を持っていてさぞかし危険なんでしょう、と思われませんが、この蛇はとも神経質で臆病な個体が多く、名前やイメージにある程死亡事故なる数は多くなりません。また、コブラの毒は個体を持つ毒量が多く、多量にその毒が体内に入ると致命症になってしまいますが、毒自体はものすごく強い訳ではなく、毒の強さは陸棲の蛇だとナイリクタイパンという蛇が最強です。この、陸棲最強と言われている生息域を海まで拡げるとナインブウミヘビはコブラの五百倍の猛毒を持ち、その毒はアフリカゾウも死んでしまう強さだそうです。このキングコブラは確かに危険な蛇ではありますが、キングと呼ばれるのには少し物足りないような気がしてちよつぱりかわいそうに私は思いました。

蛇は手足が見ての通りありませんが、蛇の中には後肢と呼ばれる足の退化したものがあつています。その蛇は後肢を移動などには使わず、求愛行動としてその後肢で相手の背中を刺激したりするそうです。

そんな風に進化の途中にいるような蛇など、この世界にはとてもたくさん蛇がいます。

私はそういった蛇の事を好きになり、調べ学ぶ事でこの世界での命の大切さや動物の無限の可能性を知るとともに自分の好きな事や興味のある物事に打ち込む事で得られた知識や更なる好奇心などとても色々な事を学びました。

最後になりますが、わたしはいつかもっと深くまで蛇の事を知り、ブリーダーとして蛇の繁殖を心掛けて、今以上にたくさんの方が蛇の魅力を知り、イメージを変えてもらえるように働きかけ、爬虫類という存在をもっと身近な物にしていきたいです。

今だから言える「ごめんなさい。」
そして「ありがとう。」

青葉女子学園 キティ子

私には、「ごめんなさい。」と「ありがとう。」を言わなければいけない人がたくさんいます。

それは、今まで関わってくれた児童相談所の人たちや、施設の先生方、里親、友達、彼氏、そして家族です。

まず、児童相談所の人たちには、私が小さい頃から、今の今まで関わっていたでいています。私は、中学生の時からとても荒れるようになり、とても不安定な生活をしていました。もともと自分の気持ちを素直に言葉したり、伝える事ができない私は、ある事のきっかけから、キレて暴れて物を壊わしたりする事でした。感情を表わす事が出来なくなってしまう、何度も警察にお世話になりました。

そうしているうちに私は二度の入院をしました。私は、「こんな荒れはてた私の所には来てくれない。」そう思っていたのに、児童相談所の先生は、何回も何回も会いに面会に来てくれました。そして、私は、「今まですごく良くしてくれたのに、信じる事が何で出来なかったんだろう」とすごく後悔しました。その後も、何度

も児童相談所に行き、同じ事をくり返してしまい、それでも最後まで見捨てずに関わってくれている事に感謝しています。「ごめんなさい。」そして、ありがとうございます。

次に里親さんと施設の先生たちに「ごめんなさい。」と「ありがとう。」を伝えたいです。

里親さんの所には、退院したタイミングで行くことになりました。里親さんは、私にとっても良くしてくれました。一番覚えてるのは、私の誕生日の日です。里親さんは料理がとても上手でした。私はずっと里親さんの得意とする「チーズケーキを食べたい。」とずっと言っていて、私の誕生日の日、家に戻ると里親さんは、「今日は、Cちゃんのお誕生日だから、外食に行こうね。」と言ってくれました。私は、親にあたる人に、ちゃんと誕生日を祝ってもらった事がなかったので喜んでいました。外食から戻るとお姉ちゃんたちがプレゼントを持って来てくれて、後ろから里親さんが、私のずっと食べたかったチーズケーキを持って来てくれました。私は、里親家に来たばかりなのにここまでしてくれる人がいるんだなあ。と思っていました。でも、数日後、部活から戻ったら、里親さんが電話をしてい

たので、犬と遊びながらタブレットをいじっていたら、里親さんが電話で「荒れる子が来ると上のちゃんとしているお姉ちゃんたちが影響を受けて、最近はおはんの時もバラバラで、部屋から一切出てこなくなった。」という話をしている声が聞こえてきて、私は、「この家に来ていっぱい変わった所あるのに。」とか、「この家にいちやダメなのかな。」とそうしか思えなかった私は、部活もまともに行かなくなり、ほかの部室で遊んだり、ひどい時には街に遊びに行つて夜中まで遊び、家には戻らず、友達の家泊まる、という事をして、たまに行く部活でも問題をおこし、その日から部活にはまったく行くことがなくなりました。

ある日、私は、朝早くから出かける準備をしていると、めずらしく、里親さんが起きていて、私に「今日、何か用事ある。」と聞いて来たので、つめたく、「別にあなたには関係ない。」と言ってしまいました。後になって知ったのですが、児童相談所の里親担当の先生が、私たちの関係を元に戻そうと、「Cちゃんつかれて」と言うから映画でも連れて行ってあげて」と言っていたらしく私はすごく後悔しました。

施設の先生方にも、とてもお世話にな

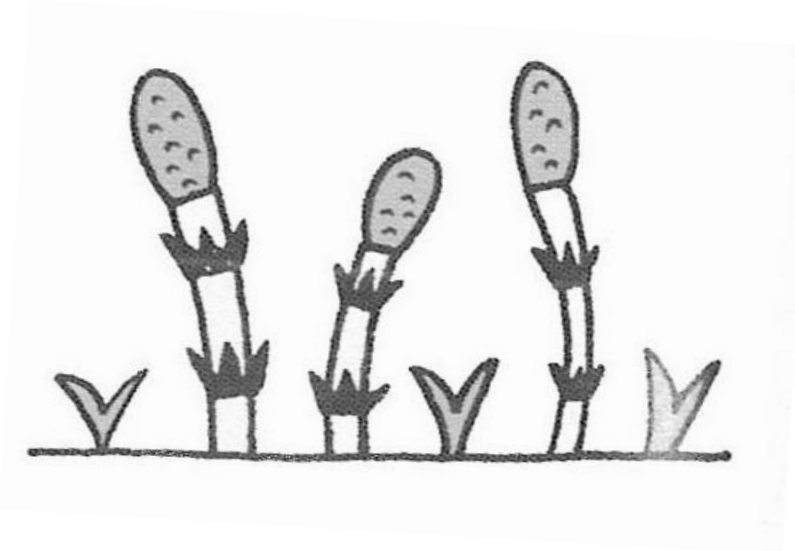
りました。担任の先生は、私に、入った日から、毎日、ここまで長く入れたの初めてなんじゃないとか、ちゃんとここから次の所に行こうねと、言ってくれました。なのに、最後の最後に寮生にキレて、関係のない人たちをまきこみ、またキレて物をこわし、大暴れをして最後まで居れなくなり、次にきまっていた所にも行けなくなってしまうました。本当にごめんなさい。

友達と彼氏は、いつも一緒というほど、一緒に居ました。友達も彼氏も、「つらい事あるんですよ。」「Cになにかあったら助けるし、何かあっても、一緒に居るし何でも相談してね。」とすごく楽になれて助けられていました。なのに裏切ることになってしまいました。なのに「ごめんね。」って言いたいです。

最後に家族です。私は小さい時から、あまり良い思い出もないし、一緒に住んだのも少しだけ。一緒に住んでいると何かと理由をつけて、暴力を振るってくるのがすごく嫌でした。何回も「生まなきや良かった。この家から出てって」と言われたつづけました。今、私がこんなに荒れているのは、家族のせい。父親がちがうといやみを言ってくる、おばあちゃん

思っているけど「生まなきや良かったじゃん」とも何度も言いつづけたけど、今、いろんな人と出会えてつらい事もたくさんあったけど、楽しい思い出が来たのも、生んでくれた親のおかげなので、いつか心から「ありがとう」と言える日が来るといいなと思っています。

今、青葉で、つらい事もあるけど、青葉を出てから、素直に、「ごめんなさい」と「ありがとう」を言えるように、そして、また同じ事をして悲しませる人を増やさないように頑張りたいです。



【選評】—自由文—

東北アララギ会「群山」編集委員

日本歌人クラブ会員

宮城県芸術協会会員

川田 永子

自由な発想で表現する自由文は、書き易いようで実は難しいものだが、いずれの作品も首尾を良く心得られた文章で読み応えがありました。今回は、二編だけの紹介になりましたが、先ずは内容の珍しかった「蛇」と題した作品を紹介します。「蛇」

—東北 I・Kさん—

蛇を育てながら、さまざまな其の生態を観察しての詳しい説明が、教示的で良い文章になっております。

更に、命ある全ての動物や植物への思い入れ等の優しさもあって、温もるような読後感を味わいました。

将来の夢はブリーダー（家畜や

ペットを繁殖させる人）として活躍したいとの事で、しっかりしたその意志も伝わる文章でした。「今だから言える『ごめんなさい』
そしてありがとう」

—青葉 キテイ子さん—

深い自省の念が、素直に込められている作品です。幼少期からのさまざまな苦しみや悲しかった事実が具体的です。

いつの日か必ず、自分自身の足で立ち直って沢山の迷惑を掛けた人々や、お世話になった人々にお詫びと感謝の言葉を伝えたいと語る内容に、しっかりした気持ちに滲んでおります。強固な意志が感じられて、頼もしさを覚えました。

尚、東北のS・Tさんや、K・Rさんの作品も卒直に心情を吐露している文章で、紹介出来ないのが残念に思います。

《読書感想文》

「NO LIMIT」を読んで
盛岡少年院 I・Y

この本は、登山家の栗城史多さんが登山を通じて感じたことや学んだ二十七個のテーマに添って書かれた本です。

自分がこの本を読もうと思ったきっかけは、題名の中に自分を超える方法が書かれてあり、どんなことをすれば自分を超えられるのかと疑問に思ったからです。

作者である栗城さんは、北海道で生まれ育ち、大学に入学するまでは、常に周囲に流されてきたそうです。でも、周囲に流されることを良しとしていただけではなく、何とかしたいという思いもあったため、大学の山岳部に入部し、自分を変えようとしたそうです。山岳部での活動を通して、様々な山を登頂していく中で、山に登ることが好きになったそうです。

そして日本の山が好きになった二十二歳の時、海外の山に登りたいという挑戦する気持ちを抱くようになりました。海外の山と言ってもただの山ではなく、北大陸で一番大きいマッキンリーに登りた

いという決意を抱きました。しかし、周囲からは「お前には無理だ。」等とたくさん言われたそうです。でも、栗城さんの登るといふ決意に緩みはなく、山岳部を辞めてでも登山に挑戦し、そして登頂に成功しました。登頂に成功して思ったことは、不可能は自分たちが思っているだけで、やらなければわからないということに気付いたそうです。

自分がこの本を読んで、栗城さんが言いたいことは、諦めないこと、前に進むこと、仲間を大切にすることだと思えます。

この本の中で、栗城さんが諦めなかったことは、マッキンリーなどの登山の際に、どんなに辛くても山頂を目指し、登山環境が悪化して下山を余儀なくされても、また登るといふ思いにぶれはなく、山頂を目指し何度も挑戦し続けたところです。そんな栗城さんと違って自分は、今まで沢山のことを諦めてばかりで、すぐに困難から逃げてきました。勉強、仕事、人間関係すべてのことにです。勉強は、分らないと面倒くさくなり、途中で投げ出していました。仕事も辛い、疲れたという理由でさぼり休んでおきながらゲームセンターに行つて遊んでばかりいました。そんな自分なので、人との関係が

どんどん少なくなり、会って話す相手もいなくなりました。そして、自分には頼る相手がなくなりました。

でも栗城さんは、こんな自分とは違い、できないことがあると周りが助けてくれます。外国語が話せなければ仲間が通訳してくれ、登山の準備が忙しければ準備を手伝ってくれる仲間がいます。だからこそ、自分は今、少年院で対人関係を良くしようと頑張っています。話をするだけでなく、互いに助け合える関係を作れるように、自分自身が頼られる存在になれるように努力をしています。

次に、前に進むということです。登山中どんなに辛くても、山頂を目指し歩き続けるばかりでなく、時には無理をせず命の大切さを学んで下山を決断することもありました。しかし、下山は後ろ向きな考えではなく、再挑戦のための前向きな判断であり、前に進むことを前提に決断しているのだと思います。そして思ったことは、諦めなければ誰かが助けてくれたり応援してくれたりする。だから、どんなことにも諦めずに頑張っていけるのだと思います。そんな栗城さんだからこそ、応援してくれる人や助けてくれる人がいたのだと思います。

そんな栗城さんのような生き方を自分

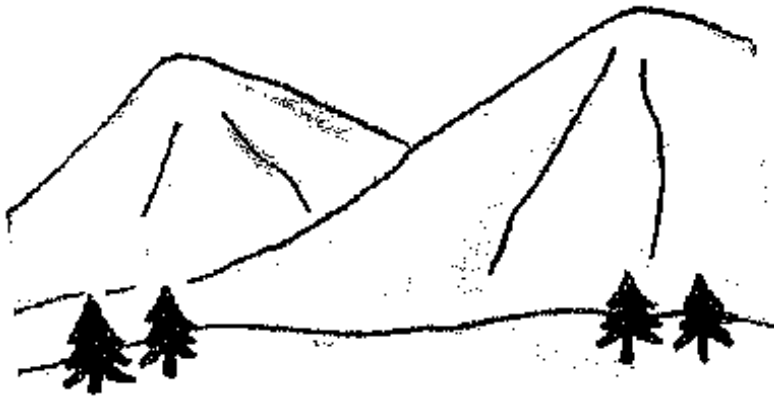
がしていたら、夢をかなえることができただろうし、仕事も続けることができただろうし、賢くなっていたかもしれない。そうすれば、周囲から助けや応援を得ていたかもしれない。でも自分はそれをしようとは思っていませんでした。だから、今の自分がここにいるのだと思います。

今度こそ自分は、この本を読んで学んだことを活かしていかなければいけないのだと思います。まずは、諦めずに勉強することです。一般常識や漢字、数学、珠算など少年院で学べることは数多くあります。今の自分がそれらを学ぶことで賢くなり、仕事が出来るようになり、周囲から信頼や信用されるようになれば、人間関係が良くなると思います。

そんな自分になるために、まず自分がすることは感謝の気持ちを持たないことです。助けてもらったり、手伝ってもらった時だけではなく、どんな時でも感謝を忘れてはいけないと思います。次に、仲間を大切にすることです。この本を読んでも仲間の大切さが分かりました。これからは仲間や家族を大切にしていこうと思います。そして、何事にも努力をすることです。すぐに誰かを頼ってばかりではなく、まずは自分で考え、それでも分

からない時や困った時に聞いたりしようと思います。

自分は栗城さんのようになりたいと思いました。登山家になりたいとか山に登りたいというわけではなく、自分で正しい決断が出来る力を持ち、諦めることなく、周りに応援されたり、どんなこともやり遂げる人になりたいです。



「得手に帆をあげて」を読んで

東北少年院 Y・R

この本は、有名な本田技研工業を創業した本田宗一郎さんが書いた本です。

僕は最初のタイトルの“得手”という言葉の読み方がわからず手に取りました。それがこの本との最初の出会いです。

手に取ってみると、著者が本田宗一郎さんだということがわかり、世界でも名を上げるメーカーを作り上げた人の考えを知りたいと思い読み進めました。

読み始めてすぐ“得手”の読み方は“えて”と読むことがわかりました。これは自分の得意とするものという意味だそうです。僕はページをめくるのが止まらなくなるほど、この本の魅力に引き込まれていきました。

著者である本田宗一郎さん（以下、本田さん）の考え方には、驚かされるものがたくさんあり、同時に心を動かされるものもありました。

僕が、読んでいて感じたのは、この本には今少年院にいたことがもう人生の終わりではなく、まだまだ可能性に溢れているのだと感ずることが出来ました。

そう感じられた理由として本の中にこんな一文がありました。「大人のいいなり

になる子が「いい子」であり、自分の意志を主張する子は「悪い子」の烙印を押されてしまう。だが、私は、世間という「悪い子」こそ「個性の芽生え」を持つ、可能性に満ちた「いい子」だと思う。」僕はこの一文を読み多くのことを学びました。自分の意思を持つことは間違いではないことや、たくさんの行動を自ら起こしていい。ということも教えてもらえたとおもいます。本田さんもこの文の直後に書いていますが、もちろん何でもしていい訳ではなく社会のルールを守り、人に迷惑を掛けない。というのが、大前提です。

他にも、心が前向きになる言葉がこの本はたくさんあり、何度も勇気をもらいました。

「自分の才能、個性は堂々と誇示せよ」「努力をすればその分報われる」「失敗は経験である」など本に書いてあるこれらの言葉は、今の僕を支えてくれる宝物です。

僕たち少年院生は社会で非行を犯した過去を持っています。人それぞれ社会当時の環境も違うでしょうし、非行の内容も違うと思います。多くの人を傷付けてきたと思います。しかし、それでも僕たちを応援してくれる、社会で待っていて

くれる人たちはいるのです。

僕には、大切な家族がいます。もう二度と裏切ったりしてはいけないと思いますし、これからは、僕が支えてあげなくてはいけないと思います。

その為には、仕事をしなくてははいけません。

自分の力を最大限に発揮出来る仕事を行い、お金を稼いで家族を助けると共に、人のために働いて喜んでもらえるように働いていきたいと思っています。

社会で生きていくために、人として大切なことは相手の立ち場や意志を尊重することや、時間と約束を守り嘘をつかず他人に迷惑を掛けないことだということも僕はこの本を読んで学びました。

人それぞれ感ずることも違うと思えますし、考え方も違います。その為この本を読んでの感想も人それぞれだとは思いますが、僕は、この本を読んでは自分に自信が持てるようになりましたし、逆に相手を尊重しつつ自分の意見も相手に伝えることの難しさも知りました。しかしそれも成功への一歩です。失敗しても次の試みに意欲を燃やしていきたいと思っています。

僕たち少年院生はまだこの先未来があります。僕たちの過去は決して人に

自慢出来るものではないかもしれませんが、今の生活はとても辛いかもしれませんが、苦しみの先には必ず楽しみがあるものです。大きな苦しきほど巡りくる楽しみは大きいものだ。ということを感じて僕は、これからの生活も前向きに努力し続け、いつか人を幸せに出来る人間になっと思っています。

その為に僕は、これから生きていく中で、得意なことを積極的に發揮していく。つまり得手に帆をあげる人生を送っていこうと思います。



「手紙」を読んで

東北少年院 K・Y

自分は、東野圭吾の手紙という本を読みました。自分は本を開く前、本の表紙を見て、アンジェラ・アキの手紙という曲が思い浮かびました。なので未来にあてた手紙を書くという内容のような小説だと思いました。でも全然違う内容でした。

この手紙という小説の始まりは、ある兄弟がいてその兄が高校生の弟のために、仕事の顧客さんであった人の家に強盗に入りその家のおばあさんに見つかってしまい殺してしまい警察に逮捕されてしまったことから始まる話です。この兄は弟の高校生活が最後で進学して大学に行きたいということを書いて金が必要ということで盗みに入ったということでした。自分は、この時の兄の気持ちになつて考えてみました。正直、この兄はとても弟思いで優しい人なんだと思います。小学校でも幼稚園生でもない高校生の弟のために人の家に入り金を盗むなんて絶対に考えられないなと思いました。しかもこの兄は、金だけではなく弟の大好きな甘栗も盗るといふ、どこまで優しい兄なんだろうと思いました。でも、現

実はそんな甘くはありません。この兄と弟には、母も父もいません。なので兄が仕事をしないと生活ができません。このとおり分かると思いますが、弟が大学に行ける確率はかなり低いといえます。だからといって人の家に入り、盗みをしようとするのはよくありません。この兄は、そのようなことを考えて、実行をしてみました。その結果考えてもいなかっただ人を殺すまでやってしまった。その後、警察に逮捕されてしまい、後日、新聞やテレビのニュースなどに大きく取り上げられました。もうこの時点で弟は加害者家族になってしまいました。犯罪は犯罪で誰も喜ばないですし、助かりません。なので兄の罪によって弟は苦しみ、悲しむことになるのです。小説の物語では、その後の弟の生活が書かれていても苦しい生活を送ったんだなと思いましたが、自分も人事ではないなと思いました。この弟は、兄のやってしまったことにより社会から孤立するようになってしまいました。望んでもいない人生が始まってしまったのです。

弟の生活をまったく知らない兄は、刑務所に入り一ヶ月に一回、手紙を送ってくるようになりました。弟は、その兄からの手紙を見て怒りしか湧いてこなかつ

たというのが文から分ります。兄は手紙で、自分のことばかり伝えてきたのです。弟は、もうそれつきり手紙が送られてくるたんびにイライラしたんだと思います。物語はそこから弟の社会との戦いへとなっていくます。仕事も自分を隠さないといけなくてばれてクビ、家は住めなくなってしまうました。でもなんとか住み込みで働くところを見つけて働けるようになった弟は、もちろん住所が変わるというところで手紙を送りました。でもその後、兄から手紙がきても返しませんでした。でもある日同じ部屋の人が手紙を見つけてしまい、からかわれることになり頭にくてケンカをしてしまいました。ですがその人と話すことになり通信の学校に入ることにになり、手紙をもう一度兄に送ることにしました。ただ次にきた手紙から弟が伝えていないことまで書かれていて、それはある女性がやったことでした。その後、女性とは付き合い結婚をする弟ですが、そんなに世の中が甘くはないということを結婚してから改めて知るので

す。弟はある決断をして、ある手紙を兄に送りました。それは、もういっさい関わらないというものでした。弟は事件後一年以上もたっているのにまだ外からは、

うわさというのがでてくるのです。それなので弟はもう堂々と生きたいというところで決断したそうです。自分は、非行をしたのは自分のためだけれどその非行が自分以外の人生も変えてしまうんだなと思いました。

自分は手紙を読んで、手紙というものは伝えることができるという便利さがあるけれど、もらって嬉しい手紙とそうではない手紙があり、手紙というのは重用でもあり、危険でもあるんだなと思いました。また、自分の罪の重さも実感でき必ずしも望んでいる人が少ないという自覚をし生活していききたいです。



【選評】—読書感想文—

東北アララギ会「群山」編集委員

日本歌人クラブ会員

宮城県芸術協会会員

川田 永子

読書の意義は、言う迄もなく人それぞれながら、一般的には作品中の主人公に思いを重ねて想像したり、著者の気持ちを推測したりしながら、一種の楽しみを見出すところにあると言えるでしょう。

その意義を心得た上での感想文が殆どで、読み応えがありました。

さて、今回も規定にそって三編だけの掲載で残念ですが、次ぎのように紹介します。

—NON LIMIT—を読んで

—盛岡 I・Yさん—

登山家の栗城史多さんの作品を読み込んだの内容が、深く順序良く書かれています。

特に、登山する時の大変な苦労や命の大切さを、バランス良く保

つ栗城さんの主張を諦めずに前に進む事と解釈して、「今後の人生を生きる姿勢を学んだ」と、その結論付けがはっきりしていて納得出来る感想文です。

「得手に帆をあげて」を読んで

—東北 Y・Rさん—

内容の把握に揺るぎが無く、其の事の顛末を順序良く説明しています。特に、著者である本田宗一郎さんの人生観に共鳴して、今後は自分も得意な分野で、意志強固に生きたいとの結論に、強い意志が感じられます。

「手紙」を読んで

—東北 K・Yさん—

両親の居ない兄弟の物語で、優しい兄が罪人になってしまった経

緯や、その兄からの手紙に対する弟の思いを十分に汲みとって書かれた感想文です。迷惑手紙と嬉しい手紙の独特な結論付けに、その読書力を感じました。

尚、盛岡のH・Rさんや東北のF・Yさんの作品も丁寧な表現で印象に残りました。

《詩苑》

誓い

盛岡少年院
H・Y

これまでなんど誓ってきたことか
母を何回泣かせてきてしまったことか
いつも裏切っていた
信用もなくなり何もかも失った
今まで誓っていた言葉の重みを知った
もう母を泣かせたくない
もう母を苦しませたくない
自分の心に誓った
過去は変えられない
だが今を変える
もうチャンスはない
もうこれで最後だ
気持ちに負けず戦っていく
男として
一度決めたこと最後までやると誓った
八月十四日心に誓った



幸せ

東北少年院
M・S

幸せは皆にある
例えば僕の幸せは
数え切れないくらいあって
たくさんたくさんあるけど
1番幸せなのは
1人なんかじゃないこと
家族がいて、友達がいて
恋人がいて、支えてくれる人がいること
これが当たり前
そう思っていた頃は
幸せなんかじゃなかったけれど
これが幸せ
そう気付けた自分が
そう感じられる心になった自分が
幸せなんだと思う

悪い事をすれば
心は貧しくなってしまう
幸せが減ってしまう
だけ
良い事をすれば
心が豊かになる
心が豊かになれば
幸せは増えて行く

幸せな人生にする為に
僕の幸せを人に分ける為に
僕は心の豊かな人になりたい



誓い

東北少年院 Y・S

いろいろな人に出会い、様々なものに出会い、いろいろなことを経験し、沢山の壁にぶつかり、大切なものを失い、何が大切なのか知った。

どんなことがあるうとも

決して無駄ではなく

どんなことも未来につながっていて、

可能性を秘めている

「人の生きている」の今は一度きり

今まで出会った人も一度きり

前世、来世は全て幻想で仮に存在していても

別の人生を歩むことになる

たとえ、小学五年生の神様であつても。

たった二十年そんなことで学んだことは、限りなく小さくちっぽけなものだが、思い出はたくさんあり、今でも色鮮やかに甦える。

だから、今この時を一生を一日を

コンマ一秒でも大切にしていこう。

これが僕の誓いだ。



【選評】—詩—

日本現代詩人会会員

日本文藝家協会会員

宮城県芸術協会会員

原 田 勇 男

M・Sさんの「幸せ」は、かつて家族や友達、恋人、支えてくれる人がいて、幸せだったのに、それが当たり前だと思っていました。それを失った今になって、幸せとは何かを感じられるようになりました。幸せな人生を送るために、自分の幸せを人に分けるために、心の豊かな人になりたいという結びの言葉が生きています。

H・Yさんの「誓い」は、これまで何回も母を泣かせ、裏切ってきたことを反省し、今を変えることを誓っています。シンプルな表現ですが、もう母を苦しめたくないという素朴な思いと「もうこれが最後だ」という強い決意が込められています。

Y・Sさんの「誓い」もまた、大切なものを失って、何が大切なかを知りました。今まで学んだものや思い出はたくさんあり、それを糧にして、「今この時を大切にしていこう」と誓います。その真摯な姿勢が再生への歩みに繋がることを期待します。

《歌壇》

疲労感溜まった心を癒すのは綺麗な鳴き声トツキヨキヨカキヨク

東北少年院 Y・R

友達と歩いた道を振り返る甦える友と残された我

東北少年院 H・A

いつまでも感謝の気持ち忘れずに支えてくれる人がいるから

東北少年院 M・S

お母さん優しい愛を有り難う晴れ渡る空母の笑顔か：

東北少年院 T・R

先生は怖い人だと思いに何とびつくり実は優しい

東北少年院 K・Y

弟と毎年行った虫捕りは戻る事ない遠い思い出

東北少年院 I・R

今はまだ支えられてるばかりでも僕もいつかは人を支える

東北少年院 M・Y

兄弟の笑顔を胸に前を向くつらく険しい社会への道

東北少年院 M・Y

愛してる君を想うと胸はずみ想いすぎると涙あふれる

東北少年院 M・Y

面会で母の涙を見た途端心に決めた絶対変わる

東北少年院 A・K

赤とんぼ風になびかれすいと私に伝える秋のおとずれを

東北少年院 I・F

明日へと踏み出す一步列揃え寮生皆で心磨いて

東北少年院 T・R

暴力は他人も自分も傷つくの癒す為には愛を知るんだ

東北少年院 A・T

秋の日の月夜に響く旋律を奏でる虫の命の音色

東北少年院 S・K

足痛い筋肉痛は久しぶり体育するの三年ぶりだ

東北少年院 M・K

面会に来てくれた親の顔を見て思う必ず変わらなければ

東北少年院 K・D

取り壊す母校の校舎目の前に伝えたいこと今有り難う

東北少年院 S・R

仙台の涼しい風に煽られてみんなで踊るよ雀踊りを

東北少年院 I・M

さようなら悪い心よ夢にむけ僕の心は虹色の花

東北少年院 H・A

【選評】—短歌—

短歌結社「橄欖」運営委員

宮城県芸術協会運営委員兼編集委員

日本歌人クラブ会員

伊藤久子

短歌は三十一音に何を詠んでも

よい自由な詩です。私たちはいつも良い短歌を作りたいと、五感をアンテナのように張り巡らせて、

その感覚に触れた事柄を短歌に作り上げていきます。ただし、そこには感動と品格がなければなりません。良い歌は誰が読んでも心に響いてくるはずですから。

○疲労感溜まった心を癒すのは綺麗な鳴き声トツキョカキヨク

Y・R

ホトトギスの、あの独特な鳴き声を「心を癒す」と捉えて印象的です。てっぺんかけたかとか、トツキョカキヨクとかホトトギスの鳴き声は様々な言い伝えられています。早朝のまだ薄暗い空を鳴きながら飛ぶ鳥に、今日の活力

を貰った事でしょう。

○友達と歩いた道を振り返る甦る友と遺された我

H・A

寂しいですね。いままで振り返ったことの無かった過去を思い浮かべた時、友らは皆先を歩いてるのに自分は取り残された生活を送っている。ここから頑張ろうと反省している。下の句に心象の見える歌となりました。

○赤とんぼ風になびかれすいと私に伝える秋の訪れを

I・F

何でもないような歌ですが、「私に伝える」に臨場感があり、優しい気持ちにしてくれます。○さようなら悪い心よ夢に向け僕の心は虹色の花

ほとんどが、類似の歌ですが、この「虹色の花」と言う特色に考えた様子が見えます。

H・A

《俳壇》

彼岸花皆で集まり和むかな

盛岡少年院 T・Y

北風が頬を貫くトゲとなる

盛岡少年院 T・Y

暗闇で静かに光る蛍たち

盛岡少年院 K・H

紅葉を見つめるわたし顔赤い

東北少年院 T・R

紅葉に染まる横顔赤々と

東北少年院 T・S

見上げれば大きい月が微笑んで

東北少年院 K・H

向日葵は自然がくれる金メダル

東北少年院 I・K

熱帯夜寝つけぬ僕と扇風機

東北少年院 T・R

暗闇に響き渡るは雨蛙

東北少年院 Y・R

鈴虫の鳴き声真似て後悔し

東北少年院 Y・Y

夏が来た仕事日和の青空だ

東北少年院 H・A

夏祭り花火に光る君の顔

東北少年院 K・N

秋風よ感じさせるな一人の夜

東北少年院 M・S

新雪に一步踏み出す緊張感

東北少年院 F・Y

桜道新しき道に笑顔かな

東北少年院 N・K

風鈴が奏でる音は風の声

東北少年院 S・K

春風にゆらゆら心が飛んでいく

東北少年院 S・M

雲一つない夏空は海のように

東北少年院 N・R

桜散る裸になった木が寂しい

東北少年院

K・D

堂々の打ち上げ花火空に一つ

東北少年院

I・R



【選評】—俳句—

「天為」 「春耕」同人

岩 田

諒

「俳諧は教えて成らざるところあり」。これは、芭蕉の言葉です。

俳句は、物を数えるように、理屈で理解することはできません。心を開いて、無心に対象と向き合うことが大切です。その時、対象の方から、語りかけてくれます。そのチャンス逃してはいけません。

向日葵は自然がくれる金メダル

I・K

大胆な発想ですね。思わず心が明るくなって、微笑んでしまいます。「自然」は、四季それぞれの「金メダル」によって、わたし達を励ましてくれます。今まで以上に、「自然」と親しみ、多くのことを教えてもらいましょう。

彼岸花皆で集り和睦かな

T・Y

「皆で集り和睦」でいるのは、「彼岸花」そのものであり、また、私たちなのです。人間もまた、共に生きてゆく存在なのです。群れて咲く「彼岸花」に託して、仲間と生きる現在の幸せを詠っています。

桜散る裸になった木が寂しい

K・D

満開の「桜」を楽しんだ後のその「寂し」さ。古来、日本文化の一翼を担ってきた「桜」。殊に、その散り際を愛されてきた「桜」。まさに、「桜」以外の木では成り立たない俳句です。

(加筆した句もあります。)

《柳 壇》

息抜きは自分の心を楽にする

盛岡少年院 M・M

優しくと意識してれば笑顔咲く

東北少年院 H・Y

大切さ離れてやっと気付けたよ

東北少年院 S・Y

手紙読み母の気持ちを考える

東北少年院 I・K

「大丈夫」その一言で救われた

東北少年院 H・A

ありがとう素直に言える人になる

東北少年院 M・S

諦めたその瞬間に君の負け

東北少年院 Y・S

母の飯それよりうまい物は無し

東北少年院 K・R

強くなれ母の涙と父の声

東北少年院 K・N

亡き母の「お前はできる」が背中押す

東北少年院 M・Y

月を見て好きなあの子を思い出す

東北少年院 I・F

空想の中ではいつもナイスガイ

東北少年院 F・Y

あの時の母のなみだは忘れない

東北少年院 S・I

しわの数沢山苦勞かけたよね

東北少年院 M・K

ありがとう照れくさいけど伝えたい

東北少年院 S・M

ありがとう言われる人になりたいな

東北少年院 T・K

青い海きれいな彼女と家族つれ

東北少年院 N・R

お母さん家計簿見つめ苦い顔

東北少年院 Y・S

濡れ枕乾く間もなし朝末だき

東北少年院 F・Y

ありがとう君がいたから僕がいる

東北少年院 H・A

くやしいな同じ気持ちをしたくない

青葉女子学園 パン工場のお姉さん

【選評】——川柳——

川柳宮城野社同人
宮城県芸術協会会員

佐藤 岩 男

今年は、三十三名の方から、七十
三句の作品をいただきました。
ほのぼのした句、身につまされる
句、昔の私たちも持っていた気持
ちのあふれた句が多かったのです
が、周りの人々への感謝の気持ち
を詠んだ句が目につきました。だ
から、私自身、苦しみながらも楽
しく選ばせてもらいました。
多少の迷惑を掛けながら駆け回
ったふるさとの野山、喧嘩をしな
がらも肩を組んで歩き回った友人
や好意を寄せていた人、何よりも
自分を育ててくれた両親や兄弟姉
妹等への感謝の気持ち忘れなけ
れば、昔のままの姿で支えになっ
てくれているのではないでしょう
か。

五・七・五の限られた十七音で
自分の見たこと聞いたこと感じた
ことを表現する文芸には、「川柳」
と「俳句」があります。だからこ
の二つには共通している部分もあ
りますが当然違いもあります。
川柳は俳句に比べて、きまり（し
ばり）の少ない文芸です。「季語や
切れ字」にこだわる必要もありま
せん。普通の話し言葉で詠めばい
いのです。とにかく十七音で表現
するのですから、言葉の無駄を省
くことを心がけてください。また、
人間を詠むのが主になりますので、
「静止画像」よりも「動画」を心
がけると佳い句が詠めそうです。

第44回東北ブロック書画コンクール
入賞作品

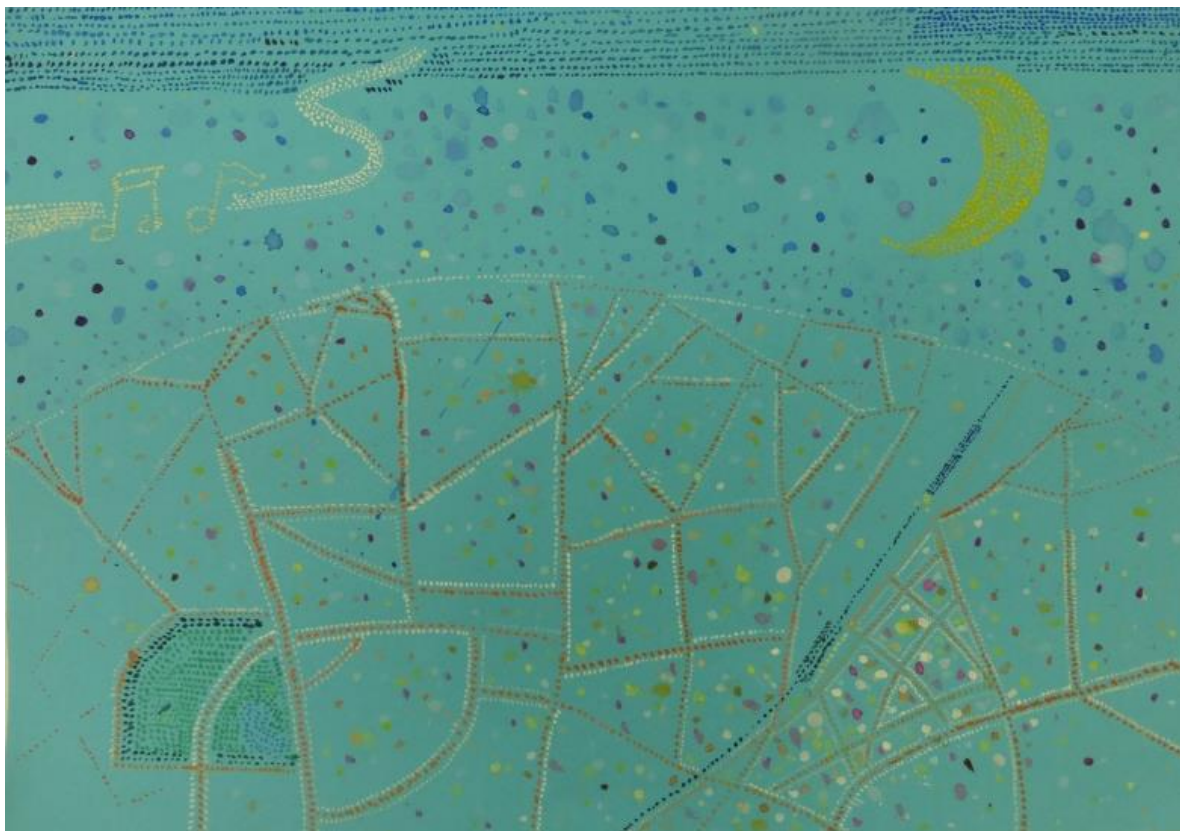
東北ブロック書画コンクールについて

当管区では、毎年、管内刑事施設の受刑者及び少年院の在院者に対して、書（毛筆及び硬筆）、絵画及びポスター・カレンダーの作品を募集し、各分野の専門家の先生の御協力のもと、東北ブロック書画コンクールを開催しております。

本誌では、同コンクールの入賞作品を、審査員の先生の選評とともに掲載いたしました。

絵画の部

金 賞



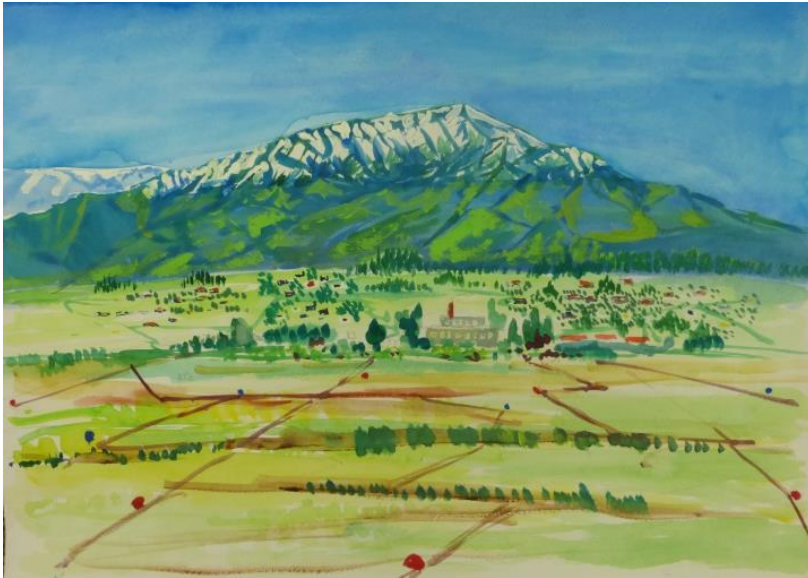
『街と音楽』

東北少年院 F・Y

【選評】 地図的構成をベースに青を基調色にした見事な表現である。街からメロディーが流れているようである。

※表紙掲載作品

銀 賞



「月山」

盛岡少年院 K・H

選評 月山を背景に広がる平野の広大さが、しっかりと描き表されている。

「はじまり」

東北少年院 S・I

選評 さわやかな色明構成と作家の緻密な表現力が感じられる。



銅 賞



「マブしい岩手山」

盛岡少年院 A・K

選評 朝陽射す岩手山の山容がしっかりと表わされている。並木の象徴化も見事である。

「なつ」

青葉女子学園 A・M

選評 墨を中心に、ブルー一色による構成が夏の夜の静けさをよく表している。



「夜桜」

東北少年院 K・N

選評 月夜に舞い散る桜の花びら、月の明かり射す窓辺の雰囲気がよく表現されている。

佳 作



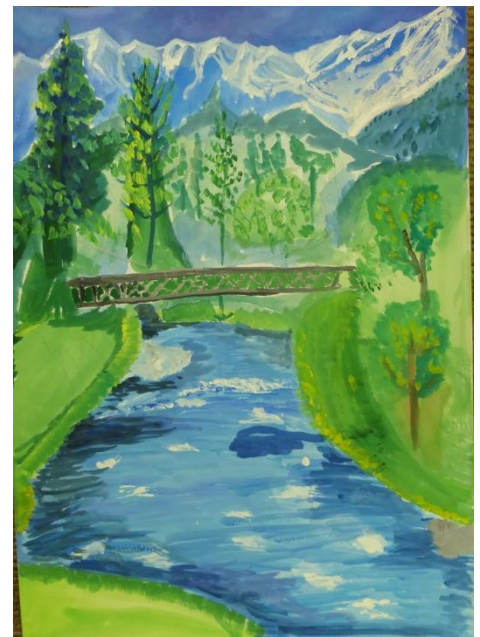
「夕焼けに映える岩手山」
盛岡少年院 K・R



「背中が暑い」
青葉女子学園 S・Y



「和」
盛岡少年院 M・R



「橋の下から流れてくる小川」
盛岡少年院 S・S



「夕焼けの窓辺にシクラメン」
東北少年院 S・K

ポスター・カレンダーの部

金 賞



「運動会」

盛岡少年院 O・H

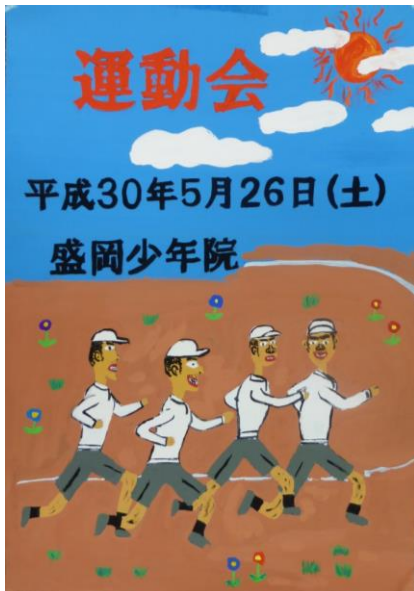
選評 スッキリとした配色や単純化された図柄。良い作品です。

銀 賞



「犯罪でパパをやめますか？」
東北少年院 T・S
選評 レタリングされた文字
や、素直な表現に引かれま
す。

銅 賞



「運動会」
盛岡少年院 Y・T
選評 スッキリとまとめた配色とユ
ーモラスに走る人々に好まし
さを感じます。

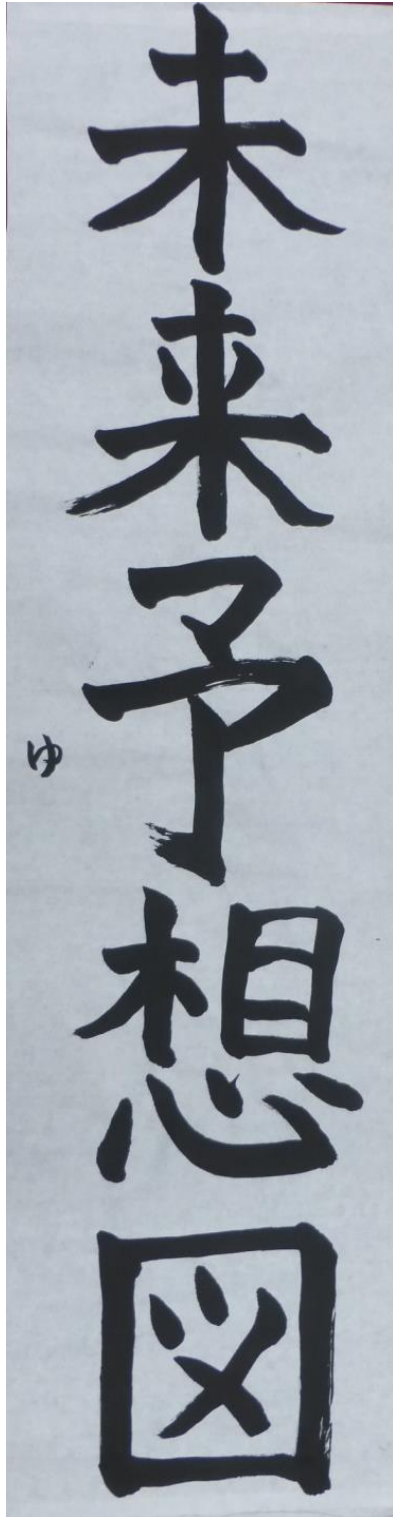
佳 作



「依存症は心の病気
その一回が命取り」
東北少年院 K・N
選評 背景の黒の中にみえる顔、印象
的です。文字がレタリングされる
ともっと良い。

毛筆の部

金 賞

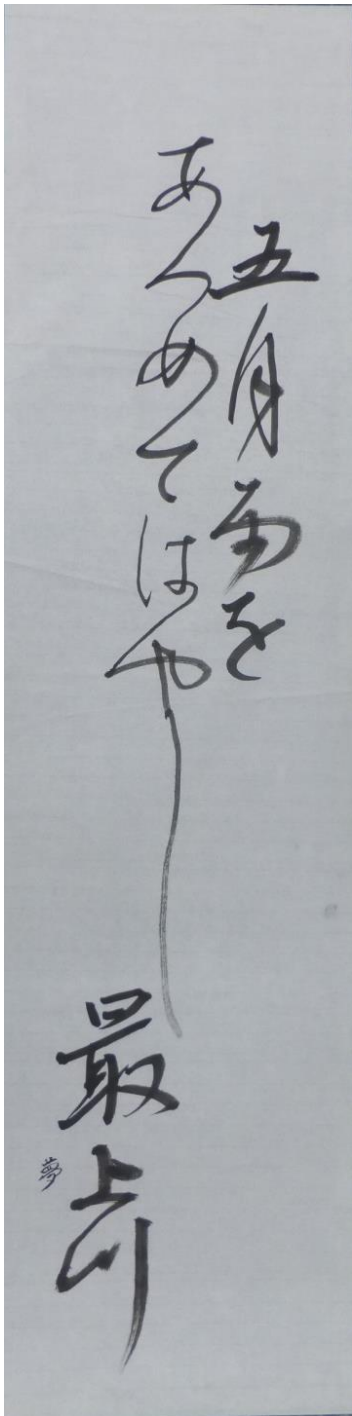


「未来予想図」

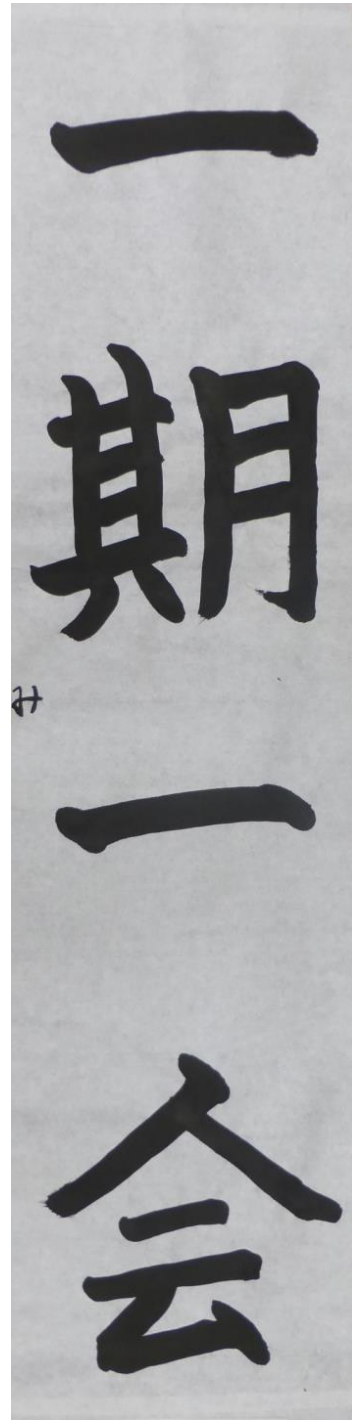
青葉女子学園 ゆ

選評 起筆・転折・収筆確実で、文字中心も貫通、安定感がある。

銀 賞

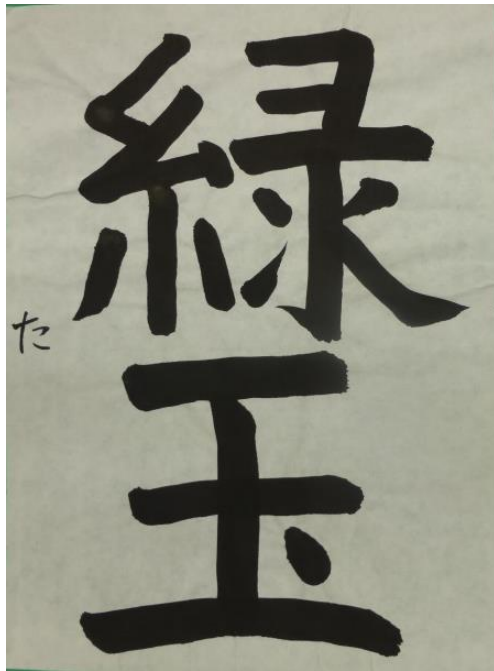


「五月雨をあつめてはやし最上川」
東北少年院 夢
選評 線の流れ途切れず、かなの優
美さを追求し、好感度高い。



「一期一会」
青葉女子学園 み
選評 太く重厚な書線は、
終始一貫迫力がある。

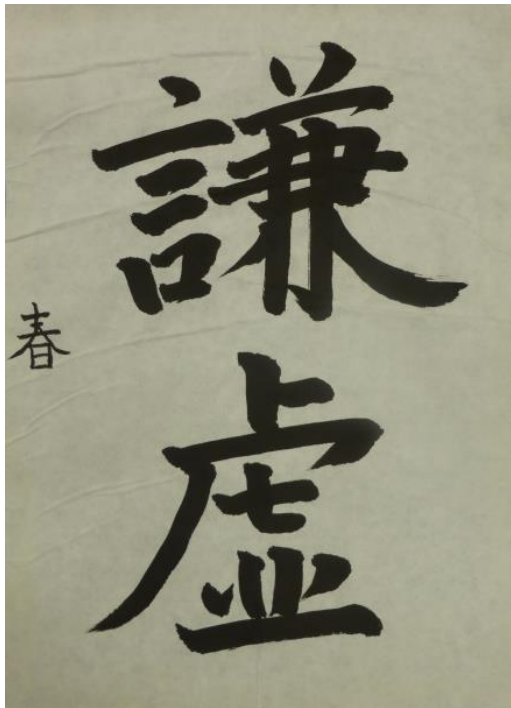
銅 賞



「緑玉」

青葉女子学園 た

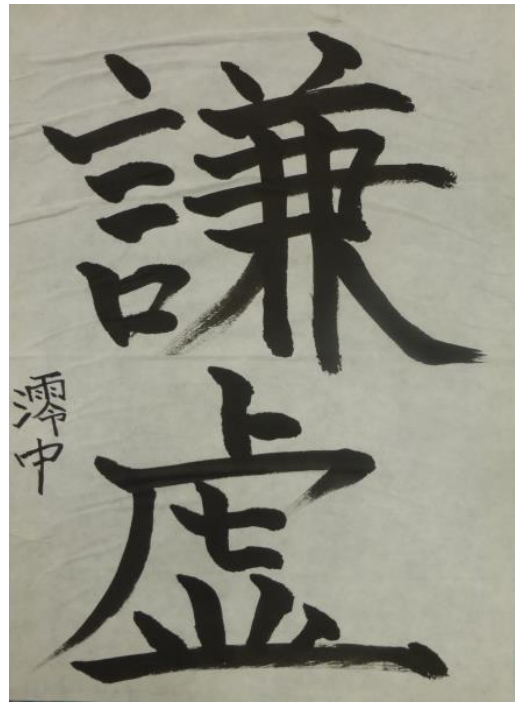
選評 丁寧な書きぶりで、
優しく明るい雰囲気
がある。



「謙虚」

東北少年院 春

選評 点画に力がこもり、小振り
ながら、気力みなぎる作品

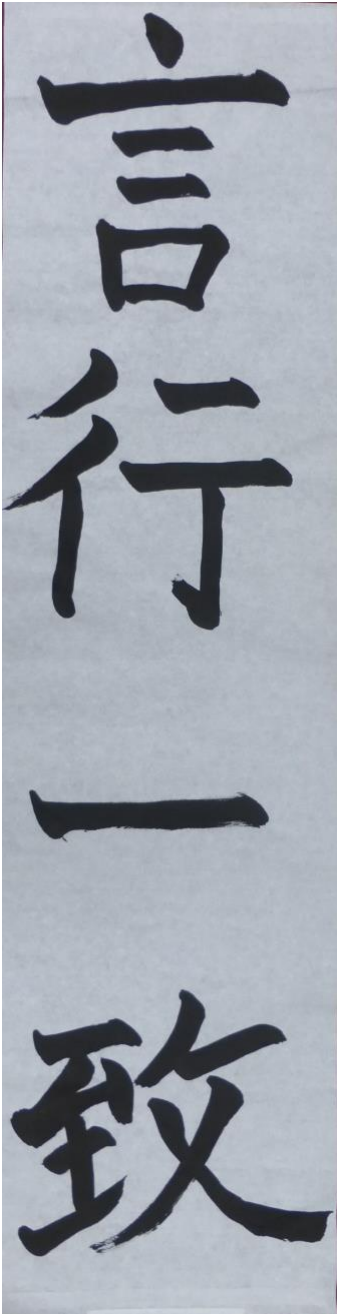


「謙虚」

東北少年院 澤中

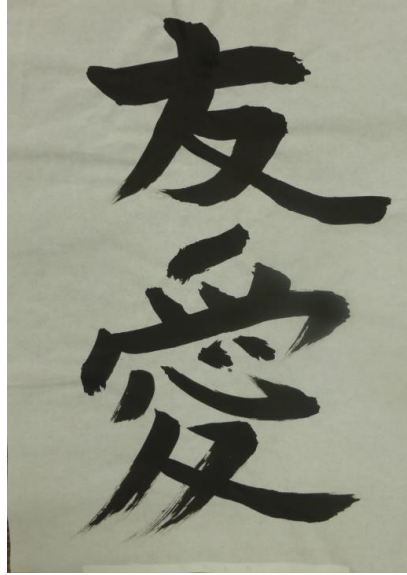
選評 伸びのびと自由に筆をはし
らせ、動きの大きな若さあふれる書

佳 作



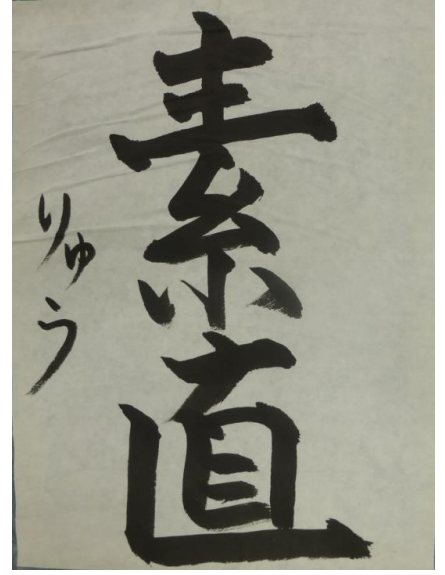
「言行一致」

青葉女子学園 K・N



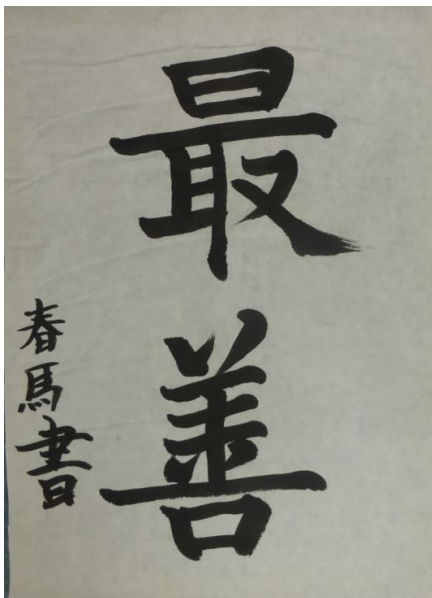
「友愛」

盛岡少年院 M・M



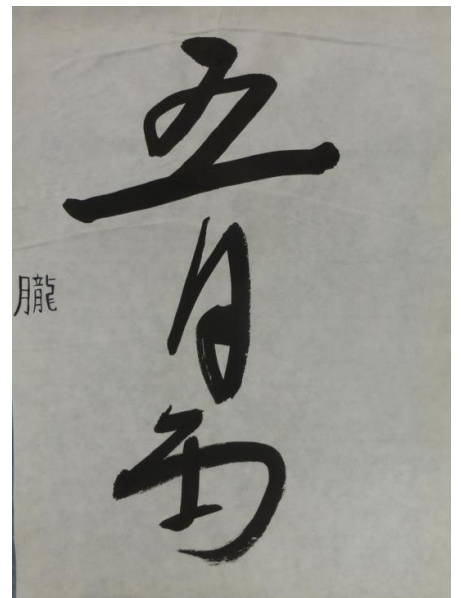
「素直」

東北少年院 りゅう



「最善」

東北少年院 春馬



「五月雨」

東北少年院 隴

硬筆の部

金 賞

雨ニモマケズ

宮澤 賢治

雨にも負けず 風にもまけず 雪にも
夏の暑さにもまけぬ 丈夫なからだ
をもち 欲はなく 決して瞋らず
いつも静かに笑っている 日に玄米
四合と味噌と少しの野菜を食べ

「雨にも負けず」

盛岡少年院 K・A

選評 漢字をひらがなよりもやや大きめに
バランス良く終始書き上げ見事。

銀 賞

夢十夜
夏目 漱石
自分はそれから庭へ下りて、真珠貝で穴を掘った。真珠貝は大きな滑らかな縁の鋭い貝であった。土をすくうたびに貝の裏に月の光が差してきらきらした。

「夢十夜」
青葉女子学園 T・C
評 筆圧あり、丁寧な書作で、きれいにまとめている。

銅 賞

「太陽と僕」
東北少年院 K・Y
選評 円角整った字形は乱れなく、安定感に満ちる。

太陽と僕
K・Y
僕は朝、目が覚めた。カーテンの隙間から照らす光が僕を包み込んでエネルギーを注入された。今日も太陽が僕を見守ってくれている。太陽のよう輝ける僕であるように何事も頑張ろう。

佳 作

雨ニモマケズ						
					宮澤 賢治	
					雨にも負けず 風にも負けず 雪にも	
					夏の暑さにもまけぬ 丈夫なからだを	
					もち慾はなく 決して瞋らさず	
					いつも静かに笑っている 一日に	
					玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ	

「雨にも負けず」

盛岡少年院 T・Y

					星の王子様	
					サンリテグジュペリ	
					つまり、王子くんの星も、ほか	
					のみんなそうなんだけど、いい草	
					とわるい草がある。とすると、い	
					い草の生えるいいタネとわるい草	
					の悪いタネがあるわけだ。	

「星の王子様」

青葉女子学園 T・M

雨ニモマケズ						
					宮澤 賢治	
					雨にも負けず 風にもまけず	
					雪にも夏の暑さにもまけぬ	
					丈夫なからだをもち 慾はなく	
					いつも静かに笑っている 一日に	
					玄米四合と味噌と少しの野菜を	

「雨にも負けず」

盛岡少年院 T・Y

第四十四回東北ブロック書画コンクール審査総評

【絵画の部】

昨年度より作品数は少なくなっているが、一点一点各自の表現主題に基づき丁寧な制作となっている。特に入賞した作品は、表現に対する思いを、形と色でしっかりとした画面構成がなされている。

【ポスター・カレンダーの部】

今回、少ない作品ではありますが、どれも丁寧に描かれていて感心しました。ポスターは、多くの人に要件を伝えるもの、そのような条件を満たしているものを選びました。

―審査員― 宮城県芸術協会運営委員

柘 澤 怜

宮城県芸術協会運営委員

鈴木 智 枝

宮城県芸術協会執行理事

吉 田 利 弘

【毛筆の部】

施設によっては、半切の大作の出品もあり、努力がうかがえた。大字の作品は迫力があり、半紙に対して見応えで勝るが、半紙作品も慎重かつ伸びやかに書き上げているものが多かった。

【硬筆の部】

それぞれ個性のある文字ながら、全てが楷書で一字一字丁寧であり、文章を書き上げるのにも集中を要するであろうと思われる、好感が持てるものばかりであった。

―審査員― 東北書道会副会長

鈴木 霽 月

東北書道会副会長

村 山 柳 雅

編集後記

本年度も各施設から多数の作品が寄せられ、本文芸作品集の発刊の運びとなりました。

本号の課題文のテーマは「誓い」でした。これまで自分の人生を振り返り、反省し、新たな人生を歩むための「誓い」。これまで幾度となく「誓い」を破ってしまったことへの反省。自分を支え、励ましてくれる人を二度と裏切らないという「誓い」。これまでの自分の人生と真摯に向き合い、これからの人生を明るくものにしようとする力強い「誓い」が表現されていました。

紙面の都合上、一部しか掲載することができないことが残念です。

末筆になりましたが、本誌の発刊に当たり、御審査と御指導を賜りました先生方に、誌上を借りまして厚く御礼申し上げます。

「みちのく」少年編第40号
平成31年2月発行

編集発行 仙台矯正管区第三部
〒984-0825 仙台市若林区古城3-23-1
TEL 022-286-0178